

## ■□要旨■□

## 1. 情報編集力の求められる時代

21世紀に入り、我々の住む世界は、「みんな一緒」の成長社会から「それぞれ一人一人」求めるものが異なる成熟社会へと移行した。例えば少品種大量生産だった生産体制は、多品種少量生産を経て、個人の嗜好を最大限反映させる個別生産も可能な時代となった(例:ハードシェル型リュックEMUの開発)。

このような社会においては、我々に求められる能力も変化している。例えば大化の改新が何年に行われたかというような「正解」をより早く導き出す「情報処理力」から、TPOや相手のニーズに合致した「納得解」を紡ぎだす「情報編集力」が求められるようになってきているのである。

自分も納得し、相手も納得できる「納得解」を紡ぎだすコツは、頭をできるだけ柔らかくした状態でのプレストにある。突拍子もないアイデアをいくつも打ち出すことから始め、そのアイデアをお互いに誉めて修正・進化させる(つなげる・編集する)。これがプレストを効果的に回すことにつながり、最終的にみんなが納得できる「納得解」へとたどり着くことができる。

これからの時代、我々はこの「情報編集力」を磨き、フル活用することが求められているのである。

## 2. 自分プレゼンでスムーズなコミュニケーションを手に入れよう

他人とのコミュニケーションを始めるに当たり、より相手の記憶に鮮明に残る為のスキル、それが自分プレゼンである。例えば、似ていると言われる芸能人、珍しい名前の由来といった相手の心をつかむ鉄板ネタを身につけて、他人とのコミュニケーションを始めてみよう。

さらには率直なQ&Aを繰り返し、相手との共通点をより多く見つけることも深い関係を築く近道である。他人との共通点(病歴といったマイナスなものであればなおさら)は、お互いのドメインを形成し、その後のコミュニケーションをスムーズにさせる。

最後は名刺交換という安全パイも残っている。相手の記憶に残る自分プレゼンにチャレンジしてみよう。

## 3. 成熟社会での公平とは何か？

成熟社会においては、公平感も正解の一つではない。量的な平等がかなえられない場合であっても、その環境下でどうすれば公平感が得られるか、アイデアを複数出してみた上で当事者の意見も聞きながら修正・編集してゆく。結果的に当事者の納得感が得られる解答(納得解)であれば、それは既に公平な解決策なのである。

## 4. 人生のエネルギーカーブ(坂の上にもた坂を作って、豊かな人生を送ろう)

人生経験を語る際、人生のエネルギーカーブを描いて可視化してみるとお互いの距離はさらに縮まるはず。

また、これまでの日本人のエネルギーカーブは総じて「富士山型一山主義」であった。45歳辺りをピークに下ってゆくばかり。ただ、後半人生をより豊かに過ごすためには、自らで「コミュニティの山」(「坂の上の坂」)を作る努力が必要。今のうちに裾野を作るつもりで、いろいろなコミュニティに参加してみよう。

## 5. 自分自身をレアカード化してみよう

自分自身の稼ぐ力を評価する時は、年収を総労働時間で割ってみて、時給に換算して比べてみる必要がある。時給にしてみると、下は800円/時のアルバイトから、上は80,000円/時のコンサル会社のパートナーまでまちまちである。この差はどこから生まれるか。それはその職業の「希少性」に由来している。これまでのキャリアの掛け算によって、自分自身を「レアカード化」することが自らの市場価値を上げることにつながるのである。

## ■□今回の学び ひとことという■□

もう大化の改新の年号を覚える努力は必要ない。情報編集力をフル回転して、成熟社会で豊かな人生をエンジョイしましょう！



■□感想■□成熟社会の現代において、既に我々は無意識の中で「納得解」を紡ぎだす努力をしているはず。しかしながら「正解」をより早く導き出すことを良しとする教育を受けた人達によって、依然「正解」偏重の教育が続けられている。今回の実習で経験した「納得解」を紡ぎだす快感を、もっと周りの人にも感じてもらいたい。「プレストマスター」としての「レアカード化」を目指します！